

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】平成17年2月24日(2005.2.24)

【公開番号】特開2000-203882(P2000-203882A)

【公開日】平成12年7月25日(2000.7.25)

【出願番号】特願平10-373950

【国際特許分類第7版】

C 0 3 C 17/25

【F I】

C 0 3 C 17/25 A

【手続補正書】

【提出日】平成16年3月17日(2004.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ガラス基体上に塗布され着色膜を形成する着色膜形成用塗布液であって、C o、C r、M n、F eおよびN iからなる群から選ばれる1種以上の金属の化合物と、C uの化合物とを含む着色膜形成用塗布液。

【請求項2】

金属の化合物がM nの化合物を含む請求項1に記載の着色膜形成用塗布液。

【請求項3】

金属の化合物が、C oの化合物またはC rの化合物をさらに含む請求項2に記載の着色膜形成用塗布液。

【請求項4】

熱処理後に酸化物M O_xとなる酸化物前駆体のMに相当する元素の総量に対して、C uとM nとの総量が、10重量%以上である請求項2 または3に記載の着色膜形成用塗布液。

【請求項5】

C uとM nとの総量に対するM nの割合が、10~90重量%である請求項2、3または4に記載の着色膜形成用塗布液。

【請求項6】

S i、T i、Z r、A l、I n、S n、S b、およびランタノイド(L a~L u)からなる群から選ばれる1種以上の元素の化合物をさらに含む請求項1~5のいずれか1項に記載の着色膜形成用塗布液。

【請求項7】

請求項1~6のいずれか1項に記載の着色膜形成用塗布液がガラス基体上に塗布され酸化物からなる着色膜が形成されてなる着色膜付きガラス。

【請求項8】

前記着色膜の膜厚が10~300nmであり、表面抵抗率が10⁴ / 以上である請求項7に記載の着色膜付きガラス。

【請求項9】

請求項1~6のいずれか1項に記載の着色膜形成用塗布液を、表面温度が300~700のガラス基体表面に塗布する着色膜付きガラスの製造方法。